― 医療分野でアジアに貢献 ―

医療機器産業の拠点構築を目指す

― 座談会 大分県産業界

大分県から宮崎県に広がる東九州地域は人工腎臓など血液浄化（アフェレシス）機器といった血液、血管に関わる医療機器メーカーの生産、開発拠点が多数立地する。この好環境を生かして、大分、宮崎両県は2010年に医療機器産業の拠点づくりなどを目指す「東九州メディカルバレー構想」を策定した。11年の厚生労働省の薬事工業生産動態統計年報によれば、医療機器の国内生産金額は約1兆8000億円。前年と比べて約950億円と5・5%増加した。これを都道府県別でみると、大分県は全国4位の約1120億円、宮崎県は同26位の約153億円。両県合わせて約1273億円で生産金額は全国の約7%を占める。国は医療・介護・健康関連産業を今後の成長けん引産業と位置づけており、まさに本構想実現は地域活性化の起爆剤として大いに期待が高まっている。そこで広瀬勝貞大分県知事をはじめ、構想を推進する産学官を代表するメンバーが出席して行われた座談会の模様を紹介する。

大分県知事　広瀬 勝貞氏

医療機器産業の拠点に

特区制度の有効活用に意欲

―まずは東九州メディカルバレー構想の概要についてうかがいます。

広瀬　東九州メディカルバレー構想は大分、宮崎両県の産学官が連携して進める一大プロジェクトだ。これまで大分県は地場中小企業とともに自動車や半導体、新エネルギーといったさまざまな産業の集積づくりを進めてきた。

本日出席されている川澄化学工業は血液バックで日本一のシェアを誇る。また旭化成メディカル（東京都千代田区）は人工腎臓、ウイルス除去フィルターで日本一のシェアを誇るなど、東九州地域は血液、血管関連で世界的な医療機器産業が集積している。

この強みを生かして地場企業が参入できる新たな産業振興策ができないだろうか、との思いから両県で本構想を策定した。血液、血管関連はこれからの医療産業の基盤となるばかりでなく、ほかの治療にも応用できる分野だと期待される。

また、この分野はライフサイエンス関連産業に力を入れる国も注目する。これらの背景から本構想では「研究開発」「医療機器産業」「医療人材育成」「高度医療」といった四つの拠点づくりを進めている。

研究開発は西日本唯一の治験拠点病院である大分大学医学部に、川澄化学工業と共同で2011年11月に寄付講座「臨床医工学講座」を設置した。産業集積では11年8月、地場企業が医療機器関連産業への参入を目的とした「大分県医療産業新規参入研究会」を発足。現在74社、7機関・団体が参加し、研究開発、人材育成に取り組んでいる。

さらに医療人材育成は大分大学と立命館アジア太平洋大学（APU、別府市）が連携して人材育成カリキュラムの検討も進めていると聞く。こうした拠点づくりの成果が評価され、11年12月には国の「地域活性化総合特区」に指定された。

順調な本構想のスタートに手応えを感じているとともに、今後は特区制度を有効活用し、構想の実現を図っていきたい。

■出席者（順不同）

大分県知事	広瀬 勝貞氏
大分大学学長	北野 正剛氏
川澄化学工業社長	川野 幸博氏
デンケン社長	石井 源太氏
徳永装器研究所社長	徳永 修一氏

（司会　日刊工業新聞社執行役員西部支社長　松本亮一）

医療機器産業の拠点づくりに向け、議論が沸いた座談会

医療分野でイノベーションを

―自己紹介を兼ねて皆さんの現状をお聞かせ下さい。

川野　当社は創業57年を迎える。プラスチック成形加工技術を医療分野に生かすことを目的に佐伯市に工場を建設し、プラスチックチューブやプラスチック成形部品を使った輸液、輸血セット、透析関連の体外循環製品、血液バックなどを製造している。

両県で本構想が策定されたことを受け、当社技術の延長線上で学術的、将来的にも広がりがある血液浄化分野を研究開発テーマに置いた。

県と大分大学に開設した臨床医工学講座には専門研究員を派遣し、共同研究を行っている。今後医療分野でイノベーションを興すとともに、地域、さらに国の産業活性化に医療分野で貢献していきたい。

北野　大分大学は学の立場から本構想を推進させるため、12年5月に学内運営委員会を設置した。医工連携、産学官連携して医療機器開発の基礎研究を推進し、革新的な開発、臨床応用を進める学内体制を整えたところだ。わが国やアジア諸国に貢献できる研究開発拠点を目指していく。

おかげさまで昨年は県と川澄化学工業の協力を頂き、医学部に臨床医工学講座を開設することができた。この講座の活動は血液、血管分野の医療デバイスの臨床試験や基礎研究の推進。さらに高度医療を担う人材育成に取り組んでいく。研究体制は専任教授を含めた数人。川澄化学工業からも客員研究員を迎えており、人体で炎症を引き起こす物質を除去する血漿（しょう）交換機器フィルターの開発などを行っている。また地場企業との共同研究ではデンケンと抗炎症光治療器や徳永装器研究所とはたん吸引器の開発を進める。

高度医療を担う人材育成についてはアジア諸国から医療技術者を招いて日本製医療機器のトレーニングを行い、その人たちが自国に帰国したのち、大分で開発した医療機器を実際に使ってもらう人材を育成したいと考えている。現在ベトナムと台湾にある大学病院などには本構想の趣旨を説明しているところだ。

（次ページに続く）

大分県は「日本のものづくり」を応援します

進出前のワンストップサービスから進出後のアフターケアまで、皆様の拠点づくりをお手伝いします！

大分北部中核工業団地　ものづくりの一大拠点

◎土地代の15%の補助制度（県5%、豊後高田市10%）
◎別途、投資額等に応じた補助制度（県）
◎緑化義務免除　◎公共下水道加入負担金免除

■ 概要
所在地　大分県豊後高田市かなえ台
事業主体　中小企業基盤整備機構　大分県土地開発公社
分譲面積　8.6ha
分譲価格　11,007円～13,617円／㎡

■ 公共施設
上　水　豊後高田市上水道より提供
工業用水　豊後高田市工業用水道
下　水　豊後高市公共下水道に接続
電　力　特別高圧線（66KV）引込可能

■ 交通アクセス
宇佐別府道路宇佐IC　17km
大分空港　30km
ダイハツ九州　23km

大分臨海工業地帯6号地（C-2地区）

◎臨海部で35haの大規模工場用地
◎工業用水、水深7.5mの専用バース完備
◎最高で10億円の補助制度（県5億円・大分市5億円）

■ 概要
所在地　大分市青崎
事業主体　大分県
分譲面積　34.9ha
分譲価格　23,500円／㎡

■ 公共施設
上　水　大分市上水道より提供
工業用水　大分県工業用水道
下　水　排水処理後別府湾へ
電　力　特別高圧線（66KV）引込可能

■ 交通アクセス
臨海産業道路　隣接
東九州自動車道宮河内IC　9km
大分港大在公共埠頭（大在コンテナターミナル）　1.5km

大分流通業務団地　物流・加工組立の一大拠点

◎最高で土地代の40%の補助制度（県）
◎最高で5億円の補助制度（大分市）
◎優れた交通アクセス

■ 概要
所在地　大分市大分流通業務団地
事業主体　大分県
分譲面積　10.4ha
分譲価格　28,557円～36,300円／㎡

■ 公共施設
上　水　大分市上水道より提供
下　水　入居企業が合併浄化槽整備
電　力　特別高圧線（66KV）引込可能

■ 交通アクセス
東九州自動車道宮河内IC　2km
大分港大在公共埠頭　4km

玖珠工業団地　自然に囲まれた広大な工業団地

◎最高で30億円の補助制度
◎玖珠ICから3分、充実する交通アクセス
◎希望に応じた区画割に柔軟に対応

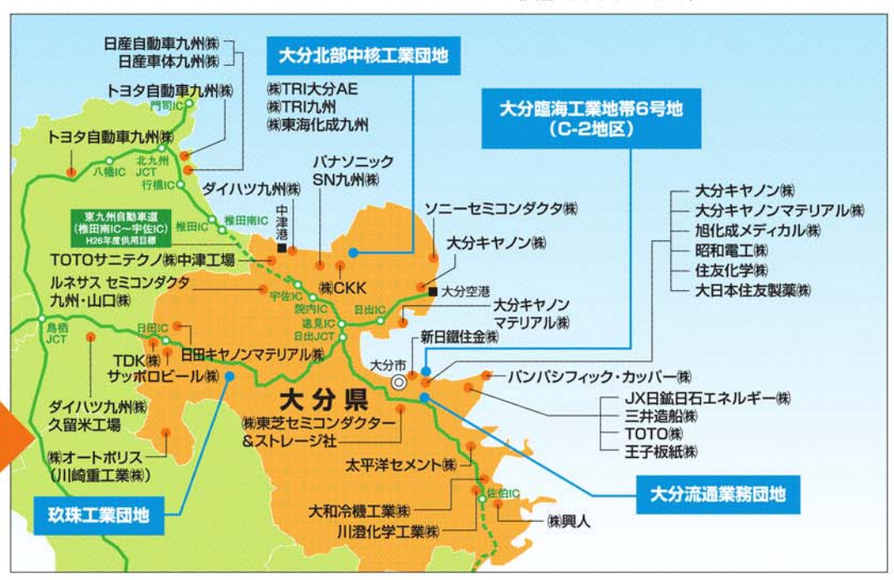
※完成予想図

■ 概要
所在地　大分県玖珠郡玖珠町四日市
事業主体　大分県土地開発公社
分譲面積　19.8ha
分譲価格　44,000円／坪（13,333円／㎡）

■ 公共施設
上　水　地下水及び玖珠町上水道
下　水　排水処理後玖珠川へ
電　力　特別高圧線（66KV）引込可能

■ 交通アクセス
大分自動車道玖珠IC　3km
JR豊後森駅　1.5km

アジアに近い大分県



大分県くらし指標

○幼稚園数（人口10万人あたり）……全国 2位
○小学校数（人口10万人あたり）……全国 8位
○中学校数（人口10万人あたり）……全国13位
○高等学校数（人口10万人あたり）……全国11位
○病院数（人口10万人あたり）……全国 4位
○常設映画館数（人口100万人あたり）……全国10位
○民間賃貸住宅の家賃（1カ月3.3㎡あたり）…全国46位
（資料）統計でみる都道府県のすがた2012 総務省統計局
○留学生比率（人口10万人あたり）……全国 1位
（資料）日本学生支援機構調べ（H23.5.1）、総務省統計局（H22.10.1現在推計人口）

お問い合わせ先

大分県企業立地推進課　〒870-8501 大分市大手町3丁目1番1号　TEL 097-506-3246
大分県企業立地ガイド（http://www.pref.oita.jp/14050/guide/index.html）
大分県東京事務所　〒104-0061 東京都中央区銀座2-2-2（ヒューリック西銀座ビル6階）　TEL 03-6862-8787
大分県大阪事務所　〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3-2100（大阪駅前第3ビル21階）　TEL 06-6345-0071
大分県福岡事務所　〒810-0001 福岡市中央区天神2-14-8（福岡天神センタービル10階）　TEL 092-721-0041